

郊外戸建住宅地における地域住民と大学生による 高齢者の居場所の形成 その3

— 愛甲原住宅での小さな拠点づくりと空き家実態調査から —

大橋 寿美子^a 加藤 仁美^b

^a 湘北短期大学生活プロデュース学科 ^b 東海大学建築学科

【抄録】

高齢化率3割を超す愛甲原住宅で、街を活性化するための学生による活動および研究を4年間行ってきた。本稿では、高齢者が気軽に外出し近隣住民と交流することができる、小さな拠点となるベンチ制作と設置について、および空き家・空き地の実態調査の結果を報告する。ベンチはコンペ形式で選出された学生のデザインから決定し、6つのベンチを制作し街中に設置した。また空き家・空き地調査結果では、2016年は10.4%が空き家で増加する一方で、空き地は1.7%で減少傾向であった。住宅更新や新たな住宅建設が確認でき、若い新規住民の転入もみられ、街は流動していることがわかった。地域住民間の個人的な関係による空き家サポートが、高齢化に伴い減少してきている中、今後は住民間サポートも組織的に、さらに行政との連携なども視野入れ、新たなサポートシステムの構築を検討していく必要があるだろう。

【キーワード】

サードプレイス 郊外住宅地 高齢化率 拠点 空き家 住民間サポート

1. はじめに・背景

本稿は既稿^{注1)}に引き続く、郊外戸建住宅地における地域住民と大学生による高齢者の居場所の形成のための一連の活動および調査研究の報告である。

家族機能が弱体化した少子高齢社会では、家族や一住宅一住戸を超えて、人と人がつながるしくみづくりが必要である。子どもや高齢者はもち

ろん、誰もが日常の役割や利害関係から解放され、気軽に誰かと会話や、近隣の人との交流を楽しむことができる住宅や職場以外の場所として、もうひとつの居場所（以下、サードプレイス）が着目され、各地に草の根的に居場所づくりの潮流がみられる^{注2)}。本研究では、高度成長期に開発され高齢化が進んだ、伊勢原市と厚木市にまたがる愛甲原住宅にあるコミュニティスペース「CoCoてらす」（以下CoCoてらす）を拠点にしたサードプレイスづくりの実践や地域の実態把握のための調査研究を通して、様々な年代や背景の人とゆるやかにつながり、人々が心の平穏を保ちかつ前向きで

<連絡先>

大橋 寿美子 ohashi@shohoku.ac.jp

活気のある地域社会づくりの一助になるサードプレイスの条件を探ることを最終的なねらいとする。

本稿では、「てらし隊」と名付けた湘北短期大学生と東海大学生の3～4年目の活動と研究内容について報告する。主な活動は、①小さな拠点を作るベンチ制作と設置、②住宅地としての現状を把握する空き地・空き家や地域住民によるサポートの実態調査研究、③愛着ある街づくりのための、愛甲原ダンスとソングの創作・普及活動である。なお、愛甲原住宅の位置は図2に、概要は表1に、詳細は既報^{注1)}にて報告済みである。

2. 現在までのCoCoてらし隊の活動経緯

「CoCoてらし隊」(以下CoCoてらし隊)と名付けた湘北短期大学生と東海大学生のボランティア組織による活動は2013年4月から開始し、2016年度で活動4年目になる(表2)。1年目は、常連の参加者が出来、街の活動をしている人を中心に認知された。さらに2年目は、「活動の見える化」「地域の方々との協働による活動」を目指した。1年目と同様の活動項目に加えて「壁面アート制作」および「平日ランチのコミュニティカフェ」を実施し記憶と形を街に残す活動を行った。3年目の活動は、小さな拠点をつくるベンチ制作と設置、そして空き家・空き地状況調査である。4年目は愛着ある街づくりを目的とした愛甲原ソングとダンスの創作及び、3年目から継続の空き家空き地と住民間のサポート状況の実態把握を行った。

4年間継続して行っているイベントは2つある。一つは街中の広場や高齢者の通所施設であるデイ愛甲原および小規模多機能施設「風の丘」でのクリスマスイベントで、クリスマスソングのハンドベル演奏やお菓子の配布である。4年目には、愛甲原ソング&ダンスもお披露目した。特に施設を



図1 愛甲原住宅の街並み写真



図2 愛甲原住宅の位置図

表1 愛甲原団地の概要

| 団地名 | 愛甲原団地 | |
|------------------------|--|-----------------------------|
| 分譲開始年次 (着工、完成年) | 分譲開始 昭和41年 (着工 昭和39年/完成 昭和41年) | |
| 事業主体 | 国家公務員共済組合連合会 | |
| 団地総面積 | 185,460㎡ | 99,100㎡ |
| 宅地分譲面積 | 122,400㎡ | 69,400㎡ |
| 区画数 | 612 | 276 |
| 平均宅地面積 | 200㎡ | 251㎡ |
| 用途地域(開発時) (現在) | (一住専) (一低専、一住) | (一住専、住居) (一低専、一住) |
| 所在地 | 伊勢原市高森台 一丁目、二丁目、三丁目地内 | 厚木市愛甲地内 |
| 自治会 | 高森台自治会 | 愛甲原自治会 |
| 世帯数(世帯) | 606(住宅地図による) | 226(自治体加入世帯) |
| 人口 (高齢人口) (高齢化率) | 1608人 526人 32.7% | - - - |
| 集会所 | 高森台児童館 | 愛甲原児童館 |
| 公園 | 横手原公園(一丁目)四角山公園(二丁目) 笠塚公園(二丁目)鳴瀬公園(三丁目) | 愛甲原しま公園 愛甲原たかみ公園 児童公園 |
| 商業施設 | 愛甲原ショッピングセンター | |
| 福祉施設 | デイ愛甲原(デイサービスセンター) 風の丘(小規模多機能居宅介護施設) | 快優館厚木(茶話本舗デイサービス) |
| バス交通(バス停) | 3系統 (愛甲原住宅、大上、愛甲郵便局前、上愛甲) | |

利用している高齢者には、学生との触れ合いも含めて「とても楽しく、わくわくした」という声が聞かれた。もう一つは、卒業の会を兼ねた1年間の活動報告を地域の方に向けて行う会である。地域の方から、この1年間の活動についてのご意見や卒業するてらし隊への社会へ出る学生への応援

メッセージが贈られる、学生にも思い出に残る会となっている。年ごとに記念樹などを寄贈している。

2年目までの活動内容については、既報^(注1)にて報告済みである。

表2 CoCoてらし隊活動内容と成果

| 活動年 | 1年目 2013年度 | 2年目 2014年度 |
|------------|---|--|
| 活動内容 | 名称・ロゴマーク決定・作成 | CoCoカフェ定期開催 |
| | お披露目のお茶会 | ミニトマト育成訪問 |
| | ミニトマト育成訪問 | ミニトマト品評会 |
| | ミニトマト品評会 | 壁面アート制作 |
| | ロータリー利用調査 | 地域の人参加による手形の花イベント開催 |
| | 地域の人とのバーベキュー大会 | 壁面アート完成披露会 |
| | 愛甲原郵便局祭りにカフェ参加 | |
| | 都市住宅学会公開研究会実施 「つながる街を目指して」 | クリスマス会開催 (@街なか・ディ愛甲原・小規模多機能施設) |
| | 日本建築学会大会梗概論文 ・口頭発表 | 地域の方への活動報告会(卒業の会を兼ねて) 日本建築学会大会梗概論文・口頭発表 |
| タウンニュースに掲載 | 日経新聞掲載・ラジオ取材 | |
| 成果 | 街の方に認知され、 固定の参加者ができる | 壁面アートへ子どもから高齢者まで200人近い参加者があり、 多くの人に活動を認知され、街の活性化へ貢献 |
| 活動年 | 3年目 2015年度 | 4年目 2016年度 |
| 活動内容 | ベンチ制作 | 空き家・空き地実態調査 |
| | ベンチ贈呈式 | (厚木市・伊勢原市・ 地域の男性メンバーCoCo行きましょ会合同調査) |
| | ベンチ希望者宅・街なかへベンチの設置 (@街なか・ディ愛甲原・小規模多機能施設) | 愛甲原ソング&ダンス制作・普及活動 |
| | 空き家・空き地実態調査 | 愛甲原郵便局祭りに参加 歌とダンスのお披露目 |
| | 日本建築学会大会ベンチ出展@東海大学 | クリスマス会開催 |
| | 日本建築学会パネル展示 | (@街なか・ディ愛甲原・小規模多機能施設) |
| | 日本建築学会大会梗概論文 ・口頭発表 | 日本建築学会大会梗概論文 ・口頭発表 |
| | クリスマス会開催 | てらし隊による卒業論文へ「空き家実態調査結果」 |
| | てらし隊による卒業論文へ 「空き家実態調査結果」 | 厚木市広報誌「広報あつぎ」3月号に掲載、特集が組まれる 地域の方への活動報告会(卒業の会を兼ねて) |
| 成果 | 明るいデザインのベンチ設置により、 小さな拠点づくりを行う。 地域活動例として建築学会に出展・発表 | 市や地域の男性の会との連携による活動が可能になる。 市に活動を認知、広報誌に掲載。 |

3. 3・4年目の活動内容

3. 1 3・4年目の活動の目的・目標

3・4年目の活動目的は3つである。

一つ目は、街の中に小さな拠点を複数作ること

である。高齢者が多いこの地域では、街の中心に位置する「CoCoてらし」まで外出が頻繁にできない人もいる。高齢者や子どもたちが家の近隣で、気軽に外出の空気を吸い風を感じ、または休憩する場所が必要である。近隣の人とたわいない会

話を交わすことで、ひきこもりがちな生活を回遊するための日常的で自然な交流を促すための、小さな拠点づくりである。

二つ目は、地域の空き家や空き地の実態の把握である。空き地や空き家が増えつつあるこの地域では、地域住民間で空き家や庭の手入れのサポートが行われてきている。サポートする側にも高齢化が進んできている中、街の現状を把握し、さらに今後のサポート体制について考察する。

三つ目は、住み続けていく人を増やすこと、新たな居住者にも住んでみたいと魅力と愛着を感じられる、活気がある街にすることである。2年目に行った壁面アートの活動には、地域の方約200名の参加があった。今も街の地図は存在し、街を明るくしている。4年目は、愛甲原住宅オリジナルの歌やダンスの創作と普及活動を行った。皆で作った歌をうたい、体を動かし、楽しい気持ちになることで、元気な街になり街に愛着を感じられるようにと考えている。

3. 2 ベンチ制作とベンチ設置

地域の中に複数の小さな拠点をつくるために、オリジナルデザインのベンチを制作し、街に設置することとした。

(1) ベンチ制作の過程

活動3年目にあたる2015年6月にCoCoてらし隊のメンバーによるデザインのアイデアコンペを実施した。15のデザイン案が提案され、審査はてらし隊のメンバーと作家のよねやまえいち氏、NPO一期一会の理事長ら2名、筆者ら2名、による多数決によって中心となるデザインを決定した。他のデザイン案も踏襲して、よねやまえいち氏によりデザインがまとめられた。サイズは3人がゆったり座れるように、そして背には、虹色に塗ったポールを入れ、側面の板にも虹の絵を入れて、すべて異なるデザインとした。またベンチ

に座った時にお茶置いたり、物をしまい収納ができ、テーブルにもなる下箱を合わせて作るようになった。実際の家具制作にあたり、てらし隊のメンバーにより家具図が提出され、家具図をもとに最終寸法(1500×450×800mm SH450mm)およびデザインを決定し、購入する部材サイズや数などを決定した。7月にホームセンターに木材や塗装材など必要な材料を購入し、8月に地域に住む家具職人の今泉氏、よねやま氏のご指導をうけながら、約1週間かけて3台のベンチを完成させた。作業はてらしの前で行われ、スーパーに買い物に来た方や子どもたちが頻繁に声をかけてくださった。出来上がったベンチを見た方からさらに3台のベンチ制作の依頼があり、9月に3台を追加で制作した。出来上がったベンチの内2台は「デイ



図3 完成したベンチと、制作メンバーの写真

愛甲原」の前の置かれ、1台はバス待ちスペースに設置した。後日依頼があった3台のうち1台は別のバス待ちのスペースに、残りの2台は個人の庭に置かれた。それぞれ目録を渡し贈呈式を行い納品した。バス待ちスペースに設置されたベンチの贈呈式には、利用者になるであろう周辺の子どもたちが集まり、ベンチが来たことを大変喜んでいただくことができた。また設置1カ月後、テーブル代わりにする台にタバコを置いた後が発見され、防炎塗料を塗るメンテナンスを行った。不特定多数の人が利用するので、事故や火事が起きないように、今後も定期的に木の状態の確認など、継続したメンテナンスが必要である。またこのベンチができたことで、地域の主婦の方々がベンチに置く座布団を集まって作ってくださった。

このようにてらし隊の活動が次の地域活動を生んでいる。次の年にもさらにベンチのオーダーが数台入った。CoCo行きましょ会の方が引き継ぎ、同じデザインのベンチを制作し、街の中に設置した。

スーパーの前に置かれた2台のベンチは、普段は「デイ愛甲」や「CoCoてらす」前に2台が並んで置かれているが、植え込みの中に向かい合わせで置かれたり、イベント時には平行に置かれるなど状況に応じてさまざまな置き方で使われていた。今後は、実際の使われ方調査などを行い、制作の目的であった小さな拠点となっているか、外出回数の変化も含め検証が必要である。

3. 3 愛甲原ソング&ダンスの創作

愛甲原ソングは、地域の方から歌詞を募集し応募されてきたものと、てらし隊が愛甲原住宅を表現したキーワードとして提案したものの中から、歌詞を検討した。さらにてらし隊が望ましい曲調を選出し、メロディーを地域に住む音楽家で人形作家の米山尚子氏とよねやまえいち氏ご夫妻が

作曲してくださった。歌詞は現在春夏を表現した2番までできている(図4)。この歌詞に振付をし、ダンスを創作した。振付は湘北短期大学の小笠原大輔先生が創作し、てらし隊のダンスレッスンの指導もいただいた。通常の速さのダンスに加えて、子どもからお年寄りまで、踊ることができるように、座ってできるゆっくりした動きのものも作り、2つのバージョンを創作した。

愛甲原ソング&ダンスのお披露目は、10月の愛甲原郵便局祭りでを行い、次に12月のクリスマス会で街中と高齢者施設でお披露目した。歌詞カードを配り、参加者は一緒に歌い、さびの振付を動ける範囲で体を動かしてくださった。若い学生の歌声とダンスに合わせて、楽しんでいただけたようで、大きな拍手を得ることができた。今後は、小学校や幼稚園、ほかの高齢者施設などを回り、歌詞カードや地図などの冊子を作って、合わせて継続して普及活動をしていきたい。

愛甲原ソング
 「I LOVE YOU LOVE あいこうはら」
 作詞: CoCo行きましょ会、
 愛甲原のお住まいの方、
 CoCoてらし隊
 作曲: よねやまえいち氏 (CoCo行きましょ会)
 米山尚子氏 (地域住民)

さくらの花びらヒラヒラ
 こどもの笑顔はキラキラ
 こんにちは こんばんは
 おひさま ニコニコ 笑うよ
 みんなで挨拶交わそう
 ありがとう お帰りなさい
 阿夫利神社に お参りしたら
 ラブリー皆は あっという間に友達さ

I LOVE YOU LOVE 愛甲原

緑が溢れる 優しさ溢れてる
 あい あい あい あい 愛甲原

図4 愛甲原ソング



図5 クリスマスイベントで、愛甲原ソングとダンスのお披露目

3. 4 空き地・空き家の実態

(1) 調査概要

空き家・空き地・近隣によるサポートの実態状況調査は、2015年と2016年に実施した。調査期間は2015年5～8月、2016年5～9月である。てらし隊が行う以前には、加藤研究室で2011年にも調査している。愛甲西2丁目、高森台1・2・3丁目を対象とし、実踏調査とヒアリング調査を実施した。実踏調査では、一軒ずつ住宅の外観から老朽化の様子、庭の草木の繁茂した状況およびフェンスの状態、郵便物の状況などを目視で確認した。さらに前回調査結果と比較して新たに発見された空き地・空き家が以前から継続しているのか、また住宅が新たに建て替えられ更新されているか、空き地への新たな住宅が建築されているか、確認した。なお実踏調査の方法は、2015年は地域住民の方と

てらし隊が組んで3人一組で行った。2016年には厚木市および伊勢原市住宅課やまちづくり課職員が加わり、2015年にできた地域住民の「CoCoいきましょ会」の方、てらし隊と4人一組のチームで調査を行った。ヒアリング調査では、各地区の地域住民にCoCoてらすに集まっていたいただき、グループインタビュー形式で行った。周辺の住宅の様子やサポートの実態についてヒアリングを行った。

(2) 調査結果

a. エリア区分とエリア特徴

愛甲原住宅は、国家公務員共済組合連合会による宅地造成事業により開発分譲された約28.5haの戸建住宅地である。東名高速道路の北側に位置し、第一種低層住居専用地域、愛甲西2丁目は建蔽率60%容積率200%、高森台1～3丁目は建蔽率50%容積率100%の地域で、周辺は市街化調整区域の小高い丘にあたる。

愛甲原住宅をA～Fの6地域に分けてチームごとに調査した(図6)。A・B地区は厚木市、C～F地区は伊勢原市である。各地区の特徴は、A・B地区は幹線道路に面して最寄りの駅から近く、バス利用や車利用の利便性は良い一方、道路に面した住宅は廃棄ガスや騒音が気になる。また幹線道路側の住宅は、道路との高低差も大きく、10段程度の階段を上がって敷地に入る住宅もある。D地区は、バスのロータリーやスーパーなどの店、CoCoてらすなどがあり街の中心的な場所である。F・E地区の東名高速道路側の住宅は、道路を挟んで目前に高速がある圧迫感と地域の端に位置している印象である。C地区の中でも西側の端のエリアは高台に位置し、眺めが良く明るい。

宅地面積は、厚木市に位置するA・B地区は平均250㎡で、伊勢原市に位置するC～F地区は平均200㎡とA・B地区と比較すると小さい。

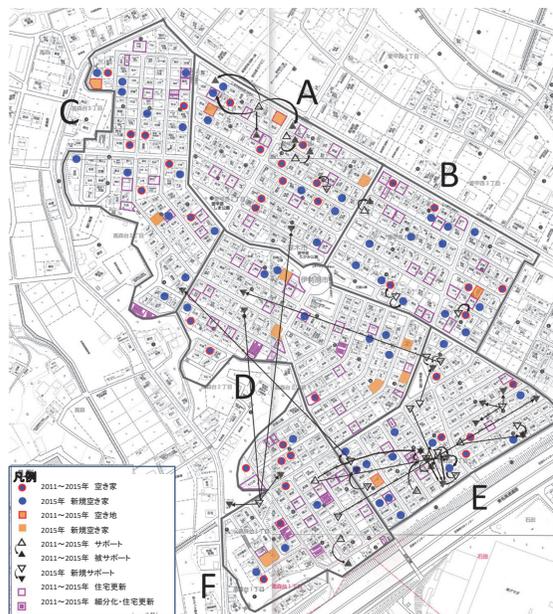


図6 愛甲原住宅A～F区分と2015年調査結果

b. 空き家・空き地数

ア.住宅地全体実態と傾向

2016年の空き家総戸数は927戸の地域の中で、空き家は96戸10.4%、空き地は16区画1.7%であった。2011年や2015年の調査結果と比較すると、空き家は、2011年84件、2015年94件、2016年96件と増加傾向である。一方空き地は、2011年20件、2015年14件、2016年16件と若干ではあるが減少傾向である。

空き地や空き家にならずに住宅を建て替えている「住宅更新」は、2011年から2016年の間に全体の約10%、つまり10件に1件が立て替えられている。また敷地が2分割される「敷地分割」も近年増加傾向で、2015年に7件、2016年には6件の敷地が増えていた。120㎡前後の小規模宅地として販売しやすいためか、現在も販売中の敷地が数件散見されている。これらの細分化された住宅に、若い子育て層の方の転入がみられる。また傾向として細分化されて新規住宅が建ち始めると、周辺にも新築の建設が増える。また逆に、空き家や多い

通りもまた空き家が増加し、そのまま放置されていく住宅が増えていく傾向がみられる。2016年に空き家・空き地に新たに新築が建てられた住宅は、7件であった。

表3 2016年調査結果 空き家・空き地数

| 住所 | | 地区 | 総戸数 | 空き家(戸)(%) | 空き地(区画)(%) | |
|------|--------|-----|-----|-----------|------------|--------|
| 厚木市 | 愛甲西2丁目 | A | 145 | 18(12.4) | 3(2.1) | |
| | | B | 141 | 23(16.6) | 1(0.7) | |
| 伊勢原市 | 高森台 | 3丁目 | 156 | 22(14.2) | 1(0.7) | |
| | | 2丁目 | 206 | 14(6.7) | 6(2.9) | |
| | | 1丁目 | E | 151 | 13(8.6) | 1(0.7) |
| | | | F | 128 | 6(4.7) | 4(3.0) |
| 合計 | | | 927 | 96(10.4) | 16(1.7) | |

表4 空き家数の経年変移

| 空き家(戸) | 2011 | 2015 | 2016 |
|--------|------|------|------|
| A | 15 | 16 | 18 |
| B | 19 | 18 | 23 |
| C | 19 | 21 | 22 |
| D | 17 | 10 | 14 |
| E | 7 | 18 | 13 |
| F | 7 | 11 | 6 |
| 計 | 84 | 94 | 96 |

表5 空き地数の経年変移

| 空き地(区画) | 2011 | 2015 | 2016 |
|---------|------|------|------|
| A | 8 | 3 | 3 |
| B | 3 | 1 | 1 |
| C | 2 | 2 | 1 |
| D | 3 | 5 | 6 |
| E | 2 | 1 | 1 |
| F | 2 | 2 | 4 |
| 計 | 20 | 14 | 16 |

イ. エリアごとの実態と傾向

エリアごとに実態と傾向を整理する。街の中心であるD地区は、現在空き家は14件と少なく、そのうち1年以内に空き家になったものも多く、維持管理も定期的に行っている良好な空き家である。また2015、2016年で約1割の「住宅更新」もみられ、最も流動している地区であったが、空き地は6件と他地区よりも多い。D地区に一部隣接し利便性が良いF地区は、空き家率は4.7%と少な

く、この2年で住宅更新も約9%あり、良好な地域である。またB地区は、空き地は少ないが、現在空き家率16.6%で最も空き家が多く、1年以上継続している空き家も多い。2015年の調査では、「住宅更新」が13件約9%みられたが、この1年では無く、課題があるエリアである。C地区は空き家率が約14%と多いも、約8%「住宅更新」がみられる。E地区は中心部からも遠く東名高速に面する部分が大きく、現在空き家が13件8.6%でこの1年間で5件減ったが、この5年間で最も増加した地域である。住宅更新も約6%と少ない。一方で、後述する住民間の空き家・空き地の維持管理サポートが2015年までは、多数みられる地域でもあった。その後2016年はサポートする側の高齢化に伴い、サポートが減ってきている。

ウ. 住民間での維持管理サポート

住民間での生活や空き家の維持管理のサポートがみられるのが、愛甲原住宅の特徴と言える(図8)。図内の矢印→の「出どころの家」が矢印で指す「先の家」をサポートしていることを表している。またC地区の東側にある建物から沢山の矢印が出ているが、小規模多機能施設「風の丘」からのサポートを受けている住宅を示している。「風の丘」からの→以外は、基本的には個人的な親しい関係からサポートがなされているが、サポート側の高齢化に伴って、徐々にサポート件数や内容の減少がみられる。

今まで地域の女性によるNPOなどの地域活動が盛んであったが、2015年4月に地域住民の男性による「CoCoいきましょ会」が発足した。いきましょ会の活動内容は、表6のとおりで、空き家管理から生活サポートまで多岐にわたる。サポート宅の高齢化に伴い、今まで個人が請負い行っていたサポートを、今後は「CoCoいきましょ会」が組織として、空き家・空き地の維持管理システムを構築していく移行期といえる。



図7 E地区の空き家事例

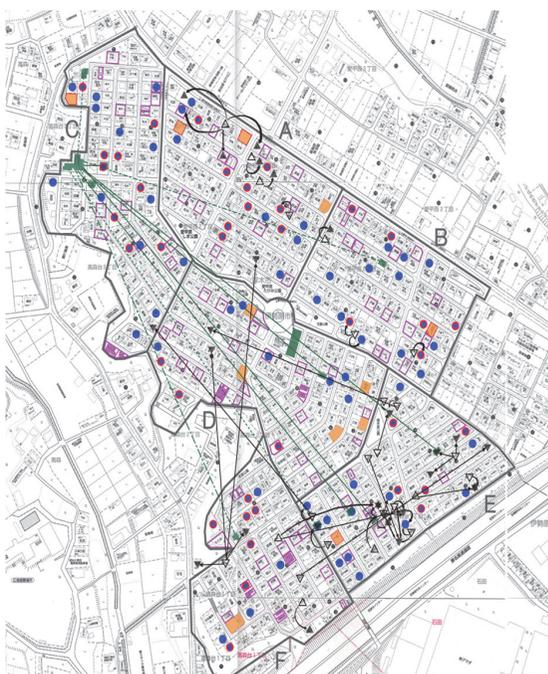


図8 2015年住民間のサポート図

表6 「CoCoいきましょ会」によるサポート項目

| | |
|----------------------------|---|
| 空 家 管 理 | a. 玄関先の掃除 b. 庭の掃除(草むしり) c. 植木伐採業者に連絡 d. 家屋補修の連絡 e. 家の風通し(鍵管理) |
| 生 活 サ ポ ー ト | a. 庭の手入れ b. 買い物代行・手伝い c. 網戸の張り替え d. 電球交換 e. ゴミ出し f. 家屋の修理 g. 大掃除(窓拭きなど) h. 玄関先の掃除 i. 車での送迎 j. PCの操作説明 k. 家財道具の移動 l. 相談 |

4. 今後のCoCoてらし隊の活動と課題

ひきこもりの防止や自然な日常的交流を促すためのベンチ制作を、「CoCoいきましょ会」が引き継ぎ、小さな拠点づくりは継続中である。ベンチができたことで座布団づくりもみられ、活動が次の活動を生み、連鎖、連携がみられるようになった。またあちこちに設置されたベンチから厚木市の住宅課の職員に活動を認識していただくきっかけにもなり、合同での実地調査にもつながった。

今後、空き家・空き地調査は、さらに詳しく各地区の方へのヒアリング調査を継続することや、この住宅地の現在の価値について不動産会社へのヒアリング調査なども行ってみたい。さらに空き家の利活用、維持管理システムの検討など引き続き行っていく予定である。また愛着ある街にするべく創作した愛甲原ソングとダンスは、パンフレットなどを作りながら、小学校や児童館、高齢者施設などで普及活動を進めていく予定である。次年度は活動5年目になる。この4年間の活動についての評価を問う調査も計画している。

【注】

- 1) 参考文献1)・2)の論文を示す。
- 2) 参考文献3)～5)に草の根的な居場所づくりがみられる。

【参考文献】

- 1) 大橋寿美子、加藤仁美：郊外住宅地における地域住民と大学生による高齢者の居場所の形成—伊勢原市愛甲原住宅での活動初期の試みから—、湘北短期大学紀要 35 (2014)
- 2) 大橋寿美子、加藤仁美：郊外戸建住宅地における地域住民と大学生による 高齢者の居場所の形成 その2 —伊勢原市愛甲原住宅での壁面アート制作を通じて—、湘北短期大学紀要 36 (2015)
- 3) 大橋寿美子他：居住地域におけるもうひとつの居場所の形成—自宅開放事例にみる運営・使われ方実態調査から—、湘北短期大学紀要 34 (2013)
- 4) 日本建築学会編『まちの居場所』東洋書店 (2010)
- 5) 高齢者居住委員会『住みつなぎのススメ』朋文社 (2012)
- 6) 大橋寿美子、加藤仁美：郊外戸建住宅地における居住者主体による高齢者の居場所づくり—サードプレイス形成に関する実践事例 (伊勢原市愛甲原住宅)、2013年度日本建築学会学術講演梗概集
- 7) 加藤仁美他：高度経済成長期の計画的郊外戸建住宅地における高齢者居住の実態 (その1)—伊勢原市・厚木市愛甲原住宅の場合、2012年度日本建築学会学術講演梗概集、
- 8) 山口剛史、大橋寿美子、加藤仁美：郊外戸建住宅地における居住者主体による高齢者の居場所づくり その3—伊勢原市愛甲原住宅での壁面アート制作を通じて、2014年度日本建築学会学術講演梗概集
- 9) 緒方優樹、大橋寿美子、加藤仁美：郊外戸建住宅地における居住者主体による高齢者の居場所づくり その4—伊勢原市愛甲原住宅の空き地・空き家の実態—2015年度日本建築学会学術講演梗概集
- 10) Ray Olden Burg 『The Great Good Place』 DA CAPOPRESS (1989)

Formation of the alternative place for elderly in suburban residential area
supported by local residents and university students- Part 3
- Creating small bases at Aikouhara Residence and Survey of the Actual Condition of Vacant Houses -

Sumiko OHASHI Hitomi KATO

[abstract]

Aikouhara Residence is a residential area with a senior population exceeding 30%. Activities and studies by students to promote activation of Aikouhara Residence have been carried out for four years. In this article, report on benches built and installed as small bases, and a survey on vacant houses that was carried out in order to grasp the actual conditions of the residential area, is presented. The design of the benches was determined based on the ideas of the students, and six benches were built and installed in the town. According to the survey results on house vacancy, about 10.0% of the houses were vacant and an increasing trend was observed. On the other hand, vacant land was only 1.7%, with a decreasing trend. Houses were remodeled and new houses were built, and more young people were moving in, indicating that the town was in flux. Support for vacant houses between local residents was decreasing due to the population aging. Consequently, establishment of a new support system, which includes coordination with the administration, is needed from now.

[key words]

The third place, Suburban residential area, Population aging, bases, vacant houses, support between residents